「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく子吉川の減災に係る取組方針

■　子吉川において、由利本荘市、秋田県、国（秋田河川国道事務所、秋田地方気象台）が一体となって、「水防災意識社会」を再構築するための取組方針を策定した。

■　これまで、国などの河川管理者により堤防整備などのハード対策を主としてきたが、今回は地域住民の安全・安心を担う沿川の由利本荘市長も参加し、氾濫することを前提とした減災に資する取組として、ハード対策のみならず、避難行動や水防活動などのソフト対策にも重点を置いた取組方針をとりまとめた。

ソフト対策の実施にあたって、由利本荘市、秋田県、国からなる子吉川「大規模氾濫時の減災対策協議会」設立し、子吉川の地形的特徴や被害状況から減災のための目標を設定した。

減災のための目標

子吉川は近年まで度重なる水害が発生している河川である。その特徴として、本川と3支川がほぼ同時に合流すること等から急激な水位上昇が生ずるため、迅速な防災行動が求められる。

今後、発生しうる大規模水害に対し、子吉川では「伝える・促す・守りきる」取組を着実に進め、氾濫被害の最小化を目指す。

この目標を達成し、「水防災意識社会」を再構築するため、ハード対策の実施状況や構成機関によるこれまでの減災に係るソフト対策の取組状況の共有を行い、以下の主な課題を抽出した。

想定最大規模の洪水による大規模氾濫に対応した現状の取組の見直し	急激な水位上昇に対応した情報伝達	水害に対する防災意識の実態把握と向上

この課題を踏まえ、目標の達成に向けた概ね５年で実施する取組として、以下の対策のうちソフト対策について、由利本荘市、県、国が一体となって行う減災の取組方針をとりまとめ、実施することとした。

- 河川管理者が実施する洪水を安全に流すハード対策や危機管理型ハード対策
- 減災のための目標を達成するための、３つのキーワードに基づくソフト対策

①伝える	②促す	③守りきる
適切に情報を収集し、わかりやすい情報を、速やかに伝える取組	判断・行動の遅れによる被災を防ぐための迅速・確実な避難行動を促す取組	住民の暮らしと生命を守るための現場での取組および住民自らが行う取組

主な取組内容

①伝える	②促す	③守りきる
◉ 防災情報認知度の実態把握と情報伝達手法、啓発活動等の検討・実施 ◉ 住民が参加する共同点検の実施 ◉ 想定最大規模の洪水での浸水想定等の作成・周知	◉ タイムラインを活用した防災訓練の実施 ◉ 住民向けのわかりやすいタイムラインの作成・周知 ◉ 自主防災組織の支援活動	◉ 構成機関が連携した水防訓練等の実施 ◉ 大規模氾濫を想定した排水計画検討 ◉ 構成機関が連携した防災教育、訓練等の支援

■各構成機関の取組については、必要に応じて、防災業務計画や地域防災計画、河川整備計画等に反映するなどによって責任を明確にし、組織的、計画的、継続的に取り組むこととする。

■原則、本協議会を毎年出水期前に開催し、取組の進捗状況を確認するとともに、必要に応じて全国の取組内容や技術開発の動向等も踏まえ、取組方針を見直すこととする。また、実施した取組についても訓練等を通じて習熟、改善を図る等、継続的なフォローアップを行うこととする。